

□議員名：藤岡修美

1 SDGsの取組状況について

論点	多くの地方自治体が、SDGsに取り組みつつあるが、本市の取組状況はどうか。
回答	本市においては、2020年度から4年間を計画期間とする中期基本計画において、SDGsをどのように反映していくかについて、検討を始めたところである。

論点	市民や職員を対象にしたセミナーの開催など、SDGsに関する情報に触れる機会が必要と考えられるがいかがか。
回答	市内ではSDGsに取組を表明している企業もあり、認知が高まっているわけではないわけではない。職員については、今年度から来年度にかけて、中期基本計画の策定と取り組む中で、しっかり見識を深めてまいりたい。

論点	SDGsの目標を予算と関連づけることで、市職員もSDGsのイメージが庁内で共有できそうだが、このような取組はいかがか。
回答	SDGsの取組について、総合計画はじめ、諸計画にひもづけるという自治体は最近多々あり、2030年までの指標を掲げ、長いストーリーを持って対応するかどうか、その観点が大切である。

論点	藤田市長は2019年の市長コラムでSDGsについて述べているが、今後の本市のSDGsの取組について、どう考えているのか。
回答	SDGsの目的やまちの持続可能性を担保するという観点は、自治体の使命であり、総合計画の目的であると考えている。今後、SDGsをどう捉えていくのか、中期基本計画策定作業において、しっかりと議論を進めていく。

2 安心して子育てができる環境づくりの取組について

論点	公立保育所再編基本計画による本市の公立保育所再編の進捗状況について聞く。
----	--------------------------------------

回答	山陽地区に新設する保育所は、令和4年4月の供用開始を目指して、建設工事を進めている。小野田地区の保育所については、日の出保育園の施設規模を見直した上で小野田駅北側市有地周辺での建て替えを検討したが、実現が難しいという判断に至っている。
----	---

論点	日の出保育園を小野田駅の南部地区に建て替えるのはいかがか。
回答	日の出保育園の南部の私有地を取得できる可能性が出てきたので、既存の日の出保育園の敷地と合わせて、既存園舎に隣接した場所に建て替えができるのではないかという検討を進めており、12月議会で、これに関連する予算を要求している。

論点	日の出保育園の建て替え後の定員は、170人としてあるが、この定員で小野田北部地区の待機児童は解消されるのか。
回答	定員は現在の120人から170人に拡大して、北部の充足率は72.5%から84%に改善する計画としているが、閉園予定の民間保育所が出てきたので現時点での入所需要量を用いると146人の不足となる。

論点	西福寺保育園が閉園した後、小野田北部地区では196人保育所の定員が足りないが、どのように解消していくのか。
回答	保育園の定員の必要数は日々変わっており、日の出保育園の建て替える際は、改めて定員の検討を行いたいと考えている。また、民間による保育所の整備の意向がある場合は、市は施設整備補助金の交付等による支援を検討していく。

論点	高泊地区に私立の保育所の建設の話が出てきたときにはどのような手法が考えられるか。
回答	私立保育所の建設に必要な手続は、施設整備補助金に関する手続、認可に関する手続、確認に関する手続がある。施設整備補助金については、施設の概要と工事費を決める必要があり、補助金の基準額は、国が2分の1、市が4分の1で、事業者が4分の1負担する。

論点	私立保育所の建設の申請があった場合、市として建設費の補助金以外の助成でできることはないか。
回答	民間からの申請があった場合、市のいろいろな課に関係する申請があるので、できる限り窓口を集約するなど、迅速な対応ができるように体制をつくっていきたいと考えている。

論点	小野田北部地区の保育所の定員不足を踏まえて、市長に本市の安心して子育てができる環境づくりの取組について聞く。
回答	仕事と子育ての両立支援に関しては、子育て世代が仕事と子育てを両立できる環境づくりを目指し、厚狭駅南部地区に建設中の公立保育所整備及び日の出保育園の建て替えを進めることにより、待機児童の解消に努めていく。